



(指導者名 喜名 早智子)

本園では、毎年9月の敬老の日にちなみ、4、5歳児が祖父母や親戚に感謝なども気持ちを伝えるハガキを描いています。祖父母や親戚に限らず、自分たちを支えてくれている人がたくさんいるということや、自分たちも誰かを支える存在になってほしいということ、そのために自分にできることを考えて小さなことからやってみることなどを、日頃から幼児に伝えてきました。今年度は、感染症拡大に伴い、親戚や大切な人に会うことや帰省することが制限され、寂しさや不安を感じている幼児もいたため、例年に比べ思いを込めて丁寧に描き上げる姿が見られました。

1月に神戸に住む在園児の祖父から幼稚園宛てに年賀状が届きました。9月に届いた幼児からのハガキがうれしく、お礼を言いたかったとのことでした。職員全体に共有するとともに、その幼児がいる学級でも祖父からの年賀状の内容について知らせました。自分がしたこと相手が喜んでくれたことや、会えなくても気持ちが伝わったといううれしさや人との関わりの温かさを、幼児だけでなく教師も感じることができました。

不安な状況が続きますが、今回の経験を生かし、今後も会えないときこそ心のつながりが感じられるような活動をしていきたいと思えます。また、誰かのために自分にできることを小さな一歩から始められるよう、日頃から幼児に伝えていきます。

赤十字の活動の際は、4歳児がワッペン、5歳児がスカーフを付けています。うまく付けられないときは、友達がそっと手助けしてくれます。

